

銀色の道

至誠而不動者 未之有也

塾長 山田勝登

今年もはや一月半がたちました。正月がつい先日だったような気がします。今年高3生が二人だけで、その二人は先日無事に推薦入試で合格しました。

まずは滝高校の R.S さん。センター試験でのアドバンテージを活かして岐阜大学に合格しました。

続いて北高校の A.H 君。岐阜薬科大学の推薦入試 A では残念でした。本人もがっかりしていましたが、すぐにねじを巻きなおし、センター試験に挑みました。結果は OK。推薦試験 B で見事合格。今年二人とも、私たちの中では 100% 合格の確信があったので、心配していませんでした。

しかしなんだかんだいってもセンターで取ることが大切ですね。2次試験に心の余裕ができます。

二人とも本当におめでとう。

さて春から今度は立場を変えて、学舎に戻ってきてもらいましょうか！

今までの経験を生かして、後輩たちを指導して下さい。

よろしく！！！！

Vol. 23 のトピックス

- ★教室便り
- ★42.195.キ。考
- ★四方山話
- ★編集後記



さて、あとは中3生です。

人生には何度か勝負所、節目があります。中学受験をする生徒以外は、これが初めての節目となります。

皆無事私立入試を終えました。あと3週間全力で、走り切ってほしいと思っています。

現中3生までは大学入試は変わりません。中2からはセンター試験がなくなります。しかし、内容については今なお問題がありますね。記述式問題など、どのように採点するのか???

私は各大学でかつてのように一発試験で OK かと思うんですが…どうしても文部科学省の外郭団体を残したいんでしょうね。

考え方、方向としては、間違っていないのですが、内容がね。

それでは銀道 vol. 23 の発進です。

◆教室便り◆

塾内のイベントなどを紹介します。

坐禅研修

今回で7回目の坐禅研修。
10月8日12時、岐阜駅改札付近に集合。
15:00 京都の萬福寺に入山。



15:30、今回の学志舎の研修を担当してくれた武内和尚から入山の心得。



全員作務衣に着替え、神妙な面持ちで心得を聞く。

研修のしおりより

坐禅を通じて

- ①禅寺の厳しい決まりのある生活を体験し
- ②禅の哲理の一端に触れ
- ③礼儀と規律を学びつつ
- ④豊かな情操と人間性を培い
- ⑤実践活動によって社会奉仕の精神を養うことを主眼とする。

受講者の心得より

- ⑦禅堂・齋堂（食堂）・浴堂（浴室）は「三黙道場」であり、私語及び音声を発することは許されない。
- ⑧廊下の歩行は叉手当胸して、中央部ではなく右側よりを二列で歩き無言のこと



- ⑨食事・清掃・就寝の準備や後片付けは、自主的に行い、常に整理整頓を心がける事。また作務（掃除）中は雑談をしない
- ⑩堂内に入る時、または人と対話するときには必ず「合掌」に始まり「合掌」に終

わり、決して礼を失しないこと

17:00 薬石 (夕食)



ご飯、味噌汁におかずは椎茸、高野豆腐、人参、沢庵。

写真は4人分です。ご飯はそこそこの量があります。これを全員で残さず食べるのです。ご飯は一粒、いや半粒、いやかけらたりとも残してはいけません。



食べた後は、持鉢じはつ (食器 大・中・小) にお茶を入れ、沢庵で洗います。そして洗った後のお茶を飲み干します。さらに持鉢は布巾でふきます。それを翌日も使います。

修行僧の方たちはそれを何カ月も使うのです。洗剤で洗うことはありません。初回、説明を受けたときは「え〜っ」と思っていました。夏など、衛生面はどう

なの？って。8回目となると、それが当たり前になってしまいます。

さて、おかずが盛られていた大皿も、4人のうちだれかが同様にします。

お茶を飲むのも、前の人に先に注いであげる。雑巾の拭き方にも決まりがあります。三黙道場ですから、無言ですべてが進みます。

食事の後は全員で、行堂ひんたん (ご飯、味噌汁を入れる片手の木桶)、やかん、大皿、布巾を洗います。



食事の後は法話です。

おなかが膨れると…睡魔が訪れますよね。しかし、全員お尚の話に集中。



正座は15分くらいして、崩してよいとお許しが出ます。

1時間の法話の後は、いよいよ坐禅です。

坐禅は^{はつとう}法堂で行います。

過去の坐禅では7年前の初回を除いて、1回につき20分×1だったのですが、今回は夜、朝とも20分を2回。

担当の若きTお尚、気合いが入っていたのでしょうか？



皆さん、^{けいさく}警策（宗派によってはキョウサク）って知ってますよね。そう坐禅の時にお尚さんが背中に「ビシバシッ」てやるやつです。

正しくは「^{けいかくさくれい}警覚策励」といいます。



これは寝ていたり、もぞもぞ動いている人が頂くのですが、自分でも姿勢を正したいときとか、足を組みかえたいときなどに合掌をすれば頂けるのです。

一回目の坐禅で合掌をし、警策を頂いたいた生徒が現れました。長良中3年のK君。眠たかったので眠気覚ましのために頂いたそうです。

坐禅のあとは開浴（風呂）。

9時に開枕（就寝）。

少し緊張の初日が終わりました。

ちなみに、開講式、法話、写経等は「西方丈」といって、男子の宿泊場所でもあるのですが、国の重要文化財の中で行われます。食事の齋堂、坐禅の法堂と会場はすべて重要文化財で、一般には公開されていません。この研修者のみ入れるのです。

また、萬福寺は日本の他のお寺と境内の雰囲気違って、庭園とかもありません。宗祖隠元禅師が日本に渡って来た中国の明時代末期頃の様式で造られています。

二日目、夜中の雨も上がり5時半に巡照(起床)。6時、法堂にて坐禅。前夜は電灯をつけた中での坐禅でしたが、朝はろうそく一本の灯りの中。この雰囲気なんとも言えずいいのです！



せっかく来たのですから、今年もお尚にお願いをして、全員警策を頂きました。

早朝の法堂の凜とした空気の中で、耳元に「ビシッビシッビシッ」と響く音。

それと同時に、背中に感じる厳かなる痛みに似た緊張感。一生忘れることのない思い出となったことでしょう。

警策はTV番組等では、後ろから肩へ頂く場面を見ますが、萬福寺の場合は前かが

みになって、左右の背中に3回ずつ頂きます。肩甲骨の下部、背骨寄りあたりですかね。非常に心地のよい痛みというか、そんな感覚です。

坐禅の組み方は基本的に両脚ですが、片足だけでもOKです。目は閉じず、薄眼で1~2m前方下に視線を持っていきます。

私は今では組むと即座に頭の中は空っぽになりますが、最初の時は浮かびっぱなしでした。生徒に聞くとやはりそのようでしたね。でも大丈夫です。

「あ、浮かんでるな」と思って、また「無」にすればよいのです。初めはその繰り返しですよ。

坐禅の後は、日天作務。自分たちが寝泊した所を、感謝の気持ちを込めて掃除します。



粥座(朝食)はこうしてお腹が空すいてきた7時です。

夕飯同様お寺のキッチンへ皆で取りに行き、作ってくれた方々にお礼を言って齋座

へと運びます。

食事の前には「五観の偈」を唱えて頂きます。



一つには、功の多少を計り彼の来処を量る（この食事が、多くの人々や生命に支えられていることに感謝します。）

二つには、己が徳行の全闕と付って供に应ず（自らの行いがきちんとしているかどうかを反省して、食事をいただきます。）

三つには、心を防ぎ過食等を離るるを宗とす（食事の量や内容にかかわらず、正しい心で残さずいただきます。）

四つには、正に良薬を事とするは形枯を療ぜんが為なり（食事は身と心の健康を保つための、一番の薬です。）

五つには、道業を成ぜんが為に應にこの食を受くべし（自分の仏道修行、目標、責務を成し遂げるための食事です）



8:00写経。

1時間かけて般若心経を書き写しました。皆、言葉を発せず黙々と筆先に集中していましたね。



雨上がりの秋の京都の空気が部屋に広がり、心地の良いひと時でしたね。

最後に作務。

開、閉講式、法話、写経の会場、男子の寮舎でもある「西方丈」と反対方向にある「東方丈」の清掃でした。



作務はこれを通じて、物事に一生懸命に取り組むことを学びます。過去には山内の落ち葉とか、裏庭の掃除が多かったのですが、雨上がりで濡れているということで屋内の清掃となったようです。

全行程を終了し、閉校式。
お尚から一人一人名前を読み上げられ
修了証を頂きました。



皆はじけんばかりの笑顔でしたね。
この後は各自自由行動で、京都の町へと向
かいました。

《今回の参加者》

中央中3年 H.H君
" M.Hさん
本荘中3年 T.S君
梅林中3年 Y.K君
厚見中3年 A.Hさん
岐阜西中3年 T.Hさん
長良中3年 S.Y君
" K.K君
" R.T君
" R.H君
長良高校2年 N.Iさん

みんな参加してくれてありがとう！

さて今回の参加者の感想より

長良中3年 洞H君

僕は先日の坐禅研修を通して貴重な経
験をしました。

まずは食のありがたみを感じたことで
す。少量の米や汁、おかずの一つ一つを味
わったり、残采をなくすことから、米一粒、
汁一滴まで大切にすることを改めて感じ
させられました。

次に胸の前で手を組んで廊下の端を歩
くことなど、普段自分たちがしている生活
と大きく違った生活をしたことです。これ
は大変でしたが、よい体験でした。

そして坐禅や写経、法話などを通して一
点に集中することの大切さがわかりまし
た。これは今後の学習などで活かしてい
きたいです。

最後に、これから食や物、家族に「感謝」
して生活していきたいと思いました。

長良高校2年Iさん

(お尚への手紙より)

拝啓

肌寒さが身にしみるこの頃、ご多忙のこ
とと存じます。お風邪など召されていませ
んか。

さて先日の萬福寺での坐禅研修では大
変お世話になりました。普段体験できない
写経、精進料理、または作務衣を着るとい
ったすべてのことがとても新鮮でした。

食事の時は、米の一粒さえ残さず食べる
という当たり前だけど、忘れがちなことを

改めて気をつける良い機会になりました。
食べ物にはもちろん作っていただいた人、また育てたものを私たちの手に入るまで関わった人たち全員に感謝するようになりました。

坐禅研修以来、食事の時には「感謝」の気持ちを忘れないようにしています。

またお伺いできる日を楽しみにしています。本当にありがとうございました。

敬具

H君、Iさんありがとう。

坐禅は思い立った時、どこでも組むことができます。心を落ち着けたいとき組んでみてください。

試験の時など、あの法堂での坐禅を思い出して、椅子に座ったまま組むのもいいですね。

実際に7年前の第一回目の参加者で当時岐阜高校3年のTさん、彼女は上がり症でしたが、入試の時に実践し、落ち着いて試験に臨めたと言っています。

ぜひお試しあれ！

秋の保護者懇談会

10月1日から始まった秋の保護者懇談会。終了は11月後半でした。

今回も9割を超える保護者の皆さんに出席いただき本当にありがとうございました。

今回もそうでした。いいことばかりではありません。塾を良くするために、言いにくいことを言っていた保護者の方には、重ねて心より感謝申し上げます。

今回の懇談会の後、ある生徒のお父さんからメールを頂きました。子供が家庭でなかなか自律して学習ができないということでした。

そこからヒントを得て新年から実施すべく計画していることがあります。

それは・・・自律学習を確立するべく「自律宣言」ハガキです。

生徒自身が作成した「1週間の計画」を元に、塾のない日の家庭での勉強時間に本人に電話をする。

事前に生徒にハガキを渡します。

自律宣言 年 月 日

私は学志舎の生徒として
自律して学習ができる
ようになりました。
今後塾からの電話は
必要ありません。

学年 氏名 _____

子どもを信頼して見守ります
保護者氏名 _____

こんなイメージです。

塾からの確認電話がなくても、しっかり計画を守って学習ができる自信ができた生徒はハガキにサインをして（保護者の方も）投函します。

そして教室には「自律宣言ボード」を作り、届いたハガキに写真をつけ貼り出します。それと同時に授業の前に本人の感想を述べてもらい、みんなの前で表彰をしたいと思っています。

とにかく思ったことは実行です。
この「銀道23」と共にお渡しいたします。

以上のような理由から、家庭でおくつろぎの時間に、定期的に電話をかけますことを、

どうぞ
ご容赦ください。



ボランティア清掃

10月23日（日）、いつものように岐阜公園に朝9時に集合。

今回は岩野田中学3年のW.OさんとM.Hさんの二人がデビュー。そして常連となった長良中3年サッカー部のS.Y君、K.K君、R.H君の3人が参加してくれました。

まだ枯葉が少なく1時間で終了しました。

何の報酬もないボランティア清掃、でも



通りすがりの方たちが声をかけてくれるんです。

「御苦労さま」「ありがとう」

特に年配の方は必ず声をかけてくれます。私は子供たちにこの「声」を聞かせたいのです。自分たちがやっていることで、人が喜んでくれるんだ、人の役に立っているんだ、そういう思いを心の襷にきざませてあげたい。それが今後の人生で、必ずや生きてくると信じています。

そう願ってこのボランティア清掃をこれからも続けていきます。

ボーリング大会

ボランティア清掃の夜、マーサボウルで今年もにぎやかに行われました。

大会開始前に長机に所狭しと積まれた賞品です。



参加賞 ボーリング無料券
スペア賞 トイレットペーパー
ストライク賞 ティッシュペーパー
B.B賞 POM ジュース1ケース
3位 新米10kg
2位 愛媛 宮本農園直送 甘平5kg
優勝 愛媛 山田農園直送 ミカン 15kg

6時30分、第10回学志舎杯ボーリング大会の熱き戦いの火ぶたが切られました。



力投のお母さんの向こうに、失投で頭を抱えるR君



いよいよ始まるぞ、優勝目指してピース

40名が参加したボーリング大会は、熱気ムンムン。

ストライクをとった後の笑顔のハイタッチ。スペアミスで大笑い。

1ゲーム目は個人で投げます。2ゲーム目からはペアで1投目2投目が変わる変則ゲーム。二人で4ゲームのトータルで争いました。

さて日頃の鍛錬の結果は？



戦利品？のトイレットペーパーにティッシュ



別室に移り集計の間しばし歓談

BB賞 S君・K君ペア



優勝 M.Kちゃん・お母さんペア



3位 D.A君・お母さんペア



今年も上位は親子ペアが独占しました。
Kペア、厚いハンデに守られて？
いや失礼、お母さんの熱投にまゆちゃんも
頑張りました。

笑いと涙？のボウリング大会もこうし
て幕を閉じました。

今回、過去に出場すれば毎度「影の優勝
者」のJ・Jペア（塾長・事務長）への挑戦が
ありませんでした。我こそはと思う方、来
年は待っていますよ！

2位 K.H君・お父さんペア



検定試験

夏と秋の年2回、漢字、英語、数学の検
定試験を行っています。検定試験は無理の
ない級から受験して、ステップアップする
のがよいと思いますね。

□年生だから△級を受けなければなら
ないということはありません。合格証をも
らって自信をつけて次の級にチャレンジ

することが大切です。
では今年の合格者を紹介しましょう。

《漢字検定》

準2級 中央中3年 H.H君
3級 厚見中3年 A.Hさん
梅林中3年 Y.K君
中央中3年 K.Mさん
" 2年 R.K君
長良中3年 S.Y君
" R.T君
" R.H君
6級 加納小6年 H.O君
7級 附属小5年 N.Sさん
8級 藍川小4年 K.Iさん

《数学検定》

3級 梅林中3年 Y.K君
長良中3年 S.Y君
" R.T君
4級 附属中2年 K.M君
5級 青山中2年 T.S君
附属中1年 K.Mさん
8級 藍川小4年 K.Iさん
Gスター 年長さん S.I君

《英語検定》

2級 長良高2年 N.Iさん
3級 富田高2年 M.F君
厚見中3年 A.Hさん
岐阜西中3年 T.Hさん
中央中3年 K.Mさん

梅林中3年 Y.K君
長良中3年 R.T君
東長良中3年 S.Y君
" 2年 K.Yさん
4級 岩野田中3年 M.Hさん
W.Oさん

まだ受験したことがない生徒、来年夏の挑戦を待っています。

木曽三川公園リレーマラソン

今回で6回目の参加です。

木曽三川公園芝生広場の1周2kmの周回コースを21周と195m、10人まででチームを組み、タスキリレーをするというものです。このような大会は、ジョギングブームによって、全国各地で開催されるようになりました。

今回は2チームで参戦しました。

風も強くなく、天気も良くジョギング日和でした。参加300チームのテントが壮観です。



「学志舎 魂 TEAM GAKUSHISHA」
のビブスがきまってるでしょう？



オムスビ100個、菓子パン、キャンデー、
チョコレート、クッキー等々の食べ物と
数々の飲料。

開始前、お約束の「Yes we can!」
毎年周りの注目を集めます。

10時30分にスタートをして、1時間ほ
どはA・B両チームは接戦でした。



Aチーム H (T) →H

Bチーム 塾長→事務長 →同時にタスキリレー

Aチーム (生徒・高2M.Sさん、M.F君、
Y.Y君、S.H君、T.O君、
中3・M.Hさん、T.Hさん、
小6・A.O君、S.Y君)

Bチーム (大人・河合、西田、橋本、新井、
以上コーチ、Oパパ、Mさん、
塾長、事務長)



力走するO君

ところが地力に勝る？大人チームがだん
だんと差を広げていきました。

最終成績は？

Bチーム 3時間20分53秒 93位
全員でゴ〜〜〜ル！



A チーム 3時間39分46秒 162位



これまた全員でゴ〜〜〜ル。

終わった後、みんなで「感謝の握手」。これは一人一人が参加してくれたおかげで、チームを組むことができた。みんなが最後までタスキをつないで走ってくれたおかげで、全員でゴールのテープを切ることができた。

そんな「ありがとう」の気持ちを込めて全員で輪になって一人一人握手をするのです。

皆いい笑顔ですね!!!



こうして木曾三川公園 42.195 kmリレーマラソン大会は幕を閉じました。

今年残念だったのは、中3チームが出られなかったことです。第3回の岐阜新聞テストとかぶってしまいました。夏プロ中に、中3でチームを組んで出る!と意気込んでいたのですが…。

昨年までは高3生がチームを組んで出場していました。(今年は二人だけでしたので、チームを組めませんでした…。)もちろん終わった後は自主的に伊奈波の教室で11時頃まで勉強です。

この時期に受験生がこんなイベントに出るなんて、岐阜の塾ではまず学志舎だけでしょうね。

これには理由があります。初めて参加した6年前のことです。長良中3年のSさんから参加の申し込みがありました。

長良中の中間試験は、リレーマラソンの二日後の火曜日から。直前の日曜日は普通ならば教室にこもってテスト勉強です。私は彼女に言いました。

「試験は大丈夫か？」

Sさんは笑顔で私に答えました。

「塾長、私出るからにはそれまでに勉強頑張る」

私の心配は杞憂に終わりました。

週末には…それまで380点台が最高だったSさん、自己最高の417点のテスト結果を持ってきました。その時のほじけんばかりの彼女の笑顔は、今でも忘れられません。

この時思いました。

「何かがあるからできない」

ではいけない。

何か（ハードル・障害）があっても、それを乗り越えてやるべきことができる、うちの生徒はそんな人間であってほしいと。

何かがあっても涼しい顔で乗り越えていく。あとで

「えっ、そんなことがあったのにやれたの？」

なんてかっこいいでしょ。

社会へ出て仕事をすると、いろんなことがあります。そんな人間ならば必ずや不平不満を言うことなく、何かがあっても乗り越えて行けると思います。

今回も出場した河合コーチ（岐阜大学医学部4年）も高3の時に、高3チームを組んで出場しましたね。

最後に岐阜北高校2年M.Sさんの感想をどうぞ。

私は今回初めてリレーマラソンに参加しました。はじめは自分の中ではあまり盛り上がっていませんでした。しかしチームの皆が頑張る姿を見ているうちに自分も頑張らねばという気持ちに変化していきました。

走る時は一人ですが、タスキはチームの皆が継いでいっているという頼もしい存在に感じました。私はこのマラソンでは、自分の力が出し切れたな、と走り終えた後に達成感を感じる事が出来ました。

マラソンは勉強と何か関わりがあるのか？

走り終えて思ったのは、自分にどれほど厳しくなれるか、という力がつくということです。特にテスト勉強時には必要な力だと思います。

まだ参加したことがないみなさん、是非リレーマラソンに参加してそれを感じてみてください！

Sさんありがとう。

来年のチャレンジャーは 君だ！



大掃除

年2回、夏と冬に教室の掃除をします。机、椅子、床、本棚等、自分たちがいつも使っているものに、「ありがとう」の気持ちを込めてきれいに掃除をします。





掃除の後はみんなで弁当を食べて解散。



参加メンバー

育真館 亀島コーチ

中3 M.H君・K.Mさん・T.Hさん
・M.Hさん

中1 K.S君

小5 N.Sさん

至誠館 久野コーチ

中3 R.T君・S.Y君・W.Oさん
M.Hさん

マラソン学習会

冬プロの特別イベントです。
昨年までのオールナイト学習会を、今回は
昼間に持ってきました。

そして、昼の休憩時間もとらず、勉強を
しながら食べる、8時間ひたすら学習する
「真冬の8耐」としました。

12月18日9時スタート！



生徒たちは特別疲れた様子も見せず、淡々と
自分の計画をこなし、無事17時に完習。

完習メンバー

中3 H.H君・TS君・S.Y君・
W.Oさん・M.Hさん

中2 K.M君

中1 K.Mさん

みんなお疲れさまでした！

年越し勉強会

大晦日の18時40分、紅白歌合戦が始まり
盛り上がりを見せ始めた時刻、一人また一人と
「年越し学習会」に参加する生徒が

育真館の引き戸を開けて集まる。

これは3年前の大晦日、現大阪大学3年生、川村紘太郎君をはじめとする高3生の生徒たちが、大晦日に塾へ来て勝手に学習を始めたことがきっかけで塾の公式イベントになったものです。

思い起こせば12年前に第一回目の「年越し学習会」があったのです。

今では一児の母となった、当時伊奈波中3年、N.Fさんが

みんなが紅白を見ている時間に勉強をしてみたい！

と仲の良かった中3メンバーを中心に、14名で至誠館で学習をしました。懐かしい思い出です。

さて19時に始まった学習会、23時に私はお湯を沸かし始めました。そして「緑のたぬき」を生徒の数だけ(1名赤いきつね)用意して教室へ。



そばを食べて、この学習会も閉幕。最後に全員で記念写真。

第1回の年越し学習会での記念写真で、

生徒たちが取ったポーズがなぜかウルトラマン。

今回もそれを踏襲して全員でウルトラマンのスペシウム光線！(1名ウルトラビーム)全員そろって、はいビーム？



解散後生徒たちは、伊奈波神社へ初詣。

1月1日1時30分時点で、教室にはまだ彼らのカバンが」ありましたね。

参加メンバー

中3 T.G君・Y.K君・T.S君・
M.H君・H.H君・A.Hさん・
K.K君・R.T君・R.H君・SY君

番外編

12月30日、20kmウォーキングから帰ると懐かしい顔が3つ。

一昨年卒業した若山、西野、昨年卒業した曾我コーチが来てくれました。

それぞれ6年間、4年間学志舎のコーチとして活躍してくれました。3人とも本当に人間的に成長したと思います。

どこへ出しても恥ずかしくない、いや胸を張って自慢できる娘たちです。

仕事の話、昔話、♡の話などなど、あっと
いう間の2時間。本当に楽しい時間でした。
自分の子供のように思える、ホントに可愛い娘たちです。

元気でね、また帰っておいで！
今度はゆっくり時間を取って飲もうな。
来てくれてありがとう。



以上 vol.22 以降の年内の教室便りでした。

42. 195 km考

2016年度も大晦日の尚子ロードでの
42.195 kmを走る事ができませんでした。

今年の敗因は右ふくらはぎの肉離れで
す。10月下旬、自宅を出て、長良橋を渡り
切る頃に右ふくらはぎに違和感が。
尚子ロードに入り、違和感は徐々に大き
くなり、金華橋の手前付近では痛みに。
忠節橋から家へ向かう予定が金華橋手前
で走る事をやめました。

2週間、痛みのためウォーキング。

治ったか？と思った2週間後、同じコース
を走っているとまた痛みが…。そしてそ

の後まったく同じことを繰り返したの
です。

「悔しい」の一言です。

私の足には致命的欠陥があります。
それは「右かかとアキレス腱附着部骨化
症」というものです。

2013年12月1日、年末のフルマラソン
に向かって最後の仕上げの30 kmを走って
いる途中、14 km地点で右かかとアキレス腱
附着部あたりに痛みが。そのまま走ってい
ると痛みはだんだんひどくなり、走るのを
断念。激痛の足を引きずって帰宅しました。

医者に行きX線写真を見ると、石灰化し
た部分が白く映っていました。先生からは

「治りません！」

とお墨付きをもらいました(笑)

翌年、半年は棒に振りました。特に7、8
月は痛みのため全く走れず状態でした。

アキレス腱とかかとの骨の間にヒアルロ
ン酸注射を打ってもらいましたが、改善は
見られませんでした。靴をはくと痛いので、
ずっとサンダルをはいていましたね。

痛みが完全にとれるまで1年間かかり
ました。

それともう一つ。

かれこれ18年ほど前ですかね、育真館
の教室を作る際に右ひざを痛めました。

「半月板損傷」

と診察され、内視鏡手術を勧められました。
しかし手術が怖くて、逃げました。以降膝



をだましまし使っています。

私の目標はあくまでも100kmウルトラマラソン完走です。6年前、初の42.195km挑戦のときに自分の限界かと思いましたが、そうでもなかったのです。きっと100kmなら本当の限界に挑戦することができるのではないかとと思っています。

完走できたら、2度と走れなくなってもいいかなってとまで思っています。

高橋尚子ロードって、私が岐阜で一番好きな場所です。四季を感じながら走るのって最高です。季節によって花壇の花の入れ替えがあります。春から夏には芝生が青々として、その上を走るととても気持ちがいいです。暑い夏の日、太陽が沈んだ頃は川沿いの風が涼しくて、いつまでも走りたい、と思うことさえあります。

今は枯れてセピア色になった芝生が、またいい感じですね。

私にはある確信があります。
それは…

「42.195 kmなら普通の人なら誰でも走ることができる」ということです。

最短半年あれば、なんとかなります。

ただ、それには条件が一つだけあります。

「走りたい！」

という本気の思い、それだけです。

◆ちよこっとコーチング◆

「目的を聴いてみよう」

子どもたちの行動の中で、大人にとって理解できないと思えるものに出会うことがあります。

そういう時

「こういうときにはこうすべき」

「もっとこうしたほうがいいのに」

そんな判断が出てきます。

そうすると

「なぜそんなことするの！」

「それでいいと思っているの！」

と、子どもにとっての詰問が出てしまいがちになります。

そういうときには、判断を脇に置いて、

子どもにとっての詰問ではなく、「質問」

「何が原因でそうしたの？」

「邪魔したものは何？」

人間の行動には、どんな行動にもその人にとっての何らかの意図があります。そんな観点から是非口にしていただきたいのが

「そうするのは何のため？」

「何のためにそれをやったの？」

「その目的は何？」

「そこにどんな意図があったの？」

という目的を聴く質問です。

理由の答えがかえってきたら

「そうなんだね」

としっかり受け取ったうえで、

「もう一度聞かね。それは何のため？」

と聴いてみてください。

理由ではなく、その行動の目的に興味を持って聴いてみてください。

◆四方山話◆

トランプ大統領が当選して、メキシコ国境線の壁、イスラム7カ国の入国禁止、TPP撤回、自動車産業への圧力など、マスコミを賑わせていますね。

新聞、TVなどのはあたかも好ましくない様な立場での報道が多いような気がします。米国でのデモも、アメリカ国民がトランプ氏に「NO」をつきつけている間の様な報道の仕方です。

さて大統領が矢継ぎ早に、大統領令を出してやっていることは、選挙期間中に公約したことばかりです。

大統領としては当たり前のことだと思います。議会の承認を得ていたら、時間がかかって仕方ありません。自分を支持してくれた国民へ選挙公約を迅速に忠実に実行している、そのように見えます。

またアメリカでのデモは、やっているところをよくみて下さいね、民主党の地盤の州とか街ですよ。自分たちの支持する候補が落選したからって、まあ往生際の悪い連中に見えます。

日本のマスコミはそれを伝えません。今まで報道の仕方では、トランプを支持した人たちまでも、今の大統領のやり方には辟易していると、そんなように感じます。公平な報道とはとても言えません。

私はトランプ氏を支持しているわけでも、反対しているわけでもありません。生徒たちには毎度言っている、日本のマスコミのレベルの低さ、偏った報道、ミスリードを平気とするメンタリティ、そういうことに気づいてほしいのです。

大統領が誰であれ、日本としてのスタンスをしっかりと持つことが大事だと思っています。言うべきことは言う、突っぱねるところは突っぱねる、譲歩できることはする。

しかし、トヨタの社長には少しがっかりしました。

日本のメーカーではあるが、アメリカで工場を建設し車を生産し、アメリカ人を雇用している。アメリカ経済に、弊社なりに寄与していると確信している。

そのくらいのこと言ってもいいんじゃないかな…？日本のトップメーカーとしての矜持を見せてほしかったですね。

また、アメリカの車が日本で売れないのはメーカーの研究不足、技術の開発のレベルの低さでしょ。日本の道路はアメリカのように広くありません。日本のガソリンは税金が高くてアメリカのように安くありません。凶体のでかい車を販売しようっても、燃費が悪い車を買えっていても、無理がありませんか？

欧州のメーカーと比べれば、違いは歴然です。日本で売れる車を開発すべきですよね。

さて、トランプ氏は米軍の駐留費全額負担をつきつけました。

いい機会だと思います。自分の国は自分で守りましょ。

この際、自国だけで防衛ができるようにシュミレーションしたらいかがなものでしょう。少なくとも今の防衛費の額ではダメです。まずは倍の10兆円くらいは予算を組みましょ。(GDPにも寄与します)

東南アジア諸国と「安全保障同盟」なようなものも結ぶことが必須です。

もちろん同盟国の集団的自衛権を、確認しましょう。

「集団的自衛権」

例えばジャイアンがスネ夫にいちやもんをつけて、いじめようとしたとしましょ。スネ夫一人だと簡単にジャイアンにぶんどられてのびてしまいます。

そこでのび太君、しずかちゃん他クラスのみんなが、友達がいじめられそうになった時は本気でみんなで助けよう、と約束するのです。

スネ夫の後ろに自分より弱いとはいえ、何十人ものクラスメイトが本気でにらんでいれば、さすがのジャイアンもスネ夫に手は出せないでしょう？

集団的自衛権は戦争を回避するための手段の一つだと考えます。

集団的自衛権に反対する人も賛成する人も根っこは同じなんですよ。

それは

「戦争をしてはならない！」

という思いです。

参考までに、私の好きなマンガ、弘兼憲史氏の「島耕作」の中に、わかりやすく説明している部分があったので添付します。ご覧ください。



いかがでしたか？

戦争にならないための集团的自衛権でした。

ラグビーに見る指導法

私は野球をやっていますが、ラグビーが大好きです。ルールさえわかれば、こんなに面白いスポーツはないと思っています。



今年のラグビーは高校、大学、社会人とも順当に優勝候補が勝ちました。

それぞれ最終の点差はせていましたが、試合内容は勝つべきチームが勝ったと

いう感じでしたね。

優勝した学生チームには共通したことがありました。それは何か？

指導者が

「教えない」

ということです。

高校は東福岡高校。準々決勝、準決勝と薄氷を踏む勝利で決勝に進出。決勝では点差ほどの(28-21)接戦ではなく危なげない勝ち方でした。

大学は帝京大学、8連覇は見事です。これまた点差ほどの接戦には見えませんでしたね。(33-26)

東福岡高校が弱小チームだったころから30年間チームを育て、現在の様な強豪校にしたのは、現法政大学監督の谷崎監督です。

谷崎氏は赴任当初からラグビー部監督を務め、3年目で全国大会に導き、4度の優勝をもたらした名監督です。

以下は谷崎監督が法政大学へ行く数年前の前のコメントより抜粋

転機となったのはニュージーランドへの留学です。ニュージーランドはラグビーが世界一強くて盛んな国です。その文化に触れて日本を外から眺めることで、私の価値観は大きく変わりました。

それまでの私は勝つことばかりに意識が

向き、自分の理想を押しつけて枝葉を切り取った盆栽のような「見栄えのするチーム」を作ろうとしていたのです。一方でニュージーランドの指導者はラグビーを通じて子どもの個性を引き出し、彼らの将来を考えて縁の下の力持ちとしてサポートしていました。その指導方法に触れてラグビーはあくまで人を成長させる手段であり、選手一人ひとりのためにラグビーが存在することを理解したのです。

日本に帰国してから私の指導方法は大きく変わりました。自分の考えを選手に押しつけるのではなく、選手自身にプレーを考えて選択させ、一人ひとりの良い面を見つけて育てることを意識しました。その指導がチーム内に浸透して結果にも結びつくようになり、復職してからの11年間は決勝に7回進み、うち4回は優勝を果たしました。

今振り返ると選手たちに「勝ってこい」と言っているうちはあまり勝ち星に恵まれませんでした。反対に「人にどれだけ必要とされるか、どれだけ喜んでもらえるか、どれだけ感謝されるか」と、ラグビーというスポーツの根底にある精神を伝えるようにしてから素晴らしい成績を残せるようになりました。

ラグビーの試合終了を「ノーサイド」と言いますが、これは、一人の男・ラグーマンとして自らを犠牲にして仲間の為に身

体を張り、他人の為に尽くせる人物として認め合い、むしろ同胞として一体化する瞬間で、敵も味方もなくなるからです。敵を作らず仲間を大切にするというラグビーの理念は、人を育てるのに最適です。



続いて帝京大学の岩出監督。岩出監督は学生時代、日本体育大学のラグビー部で活躍。大学日本一にも輝きました。



今から20年前、帝京大学の監督に就任。自分が学生時代に経験したような、厳しい指導を行いました。優勝ができない時期が10年以上続きました。

そういう時を経て、今や大学ラグビー

では敵なしの8連覇。毎年卒業生が出る学生のスポーツでこの記録は永遠に破られることはないと思います。

では岩出監督は厳しいスパルタ指導から、どのように変わったのか、以下語録より。

「成長するためには、考え続けさせないといけない。こちらの考え方を押しつけて、僕も失敗してきたけど“こう考えろ”ではなく、本人が考えた事をうまく経験させていく。」

また岩出氏の目標は、単に勝つことだけではありませんでした。

見据える先にあるのは、学生たち一人一人の卒業後の人生です。

「ラグビーという4年間のゴールだけでなく、人生のゴールを考えたときにイメージネーションも高く、クリエイティブな部分も高く、しっかりと自分をコントロールした自発性の高い学生として育ち、そして社会人として育ててほしい。」

“ダブルゴール”で考えている。」

今の名指導者は各々のスポーツを通じて人間教育をしていると言えるのではないのでしょうか？

「人としてどうあるべきか？」学生たちに常に問うています。そして人として成長した学生が、どうやら大きな果実をつかみ取っているようです。

◆編集後記◆

紙面の都合で編集後記に突入です。

「ラグビーというのはおもしろいもので、ボールが楕円球なので、どこへ行くかわからない。なんか、人生と一緒にすわ。」楕円球に魅せられ、ラグビーを愛した Mr. ラグビーこと故平尾誠二氏の言葉です。

(昨年10月 53才で逝去)



また “とらわれず、自由に”。

とのメッセージを残しています。

氏は大学3連覇、そして神戸製鋼時代は社会人7連覇の偉業を成し遂げました。司令塔に氏を擁した当時無敵の同志社ラグビーは「自由奔放ラグビー」と言われていました。神戸でもそれを踏襲しました。

「自由」とは好きなことをやっていいということでは決してありません。

自分を律することができる者のみが謳歌できる言葉だと信じています。

だから学志舎の生徒には「自由」に生きてほしいのです。どう展開するかわからない人生、その楕円球を追いかけて！

塾長 山田勝登